※令和４年度以降入学生用

学校番号	210

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	基礎数学	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書							
副教材等	新編　実用数学セミナー　進路対策・実力養成（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

① 授業に必要なものは忘れてはいけない。隣の席の生徒に見せてもらうことは許可しない。
② 毎回の授業で課される宿題は，大切な授業の復習となるのでしっかりと取り組むこと。わからない問題については，クラス内で理解している者に尋ねて解決するのが一番良いが，教科担当者に質問に来るのも良い。内容を納得することが重要。
③ 授業内容の理解を助けるためには，授業前の予習が必要である。
④ 問題を解く際には，図や途中式など，解答に至るまでの経過を必ず明記する。
⑤ どうしても解らない問題（目安として，5 分考えても解答の方針がたたないもの）については，解答を見ても構わない。解答を読んで，理解し，もう一度何も見ないで自分で解いてみる。

2　学習の到達目標

(1) 基礎的な数学の学習事項について、全体の復習にとどまらず、さらに内容を掘り下げ、理解を深める。
(2) 基礎的知識の習得と技能の習熟をはかり，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、応用力を養う。
(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。数学における基本的な概念，原理･法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。	事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている	数学の論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的根拠に基づいて判断しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1学期	中学数学の復習	基本的な数式の計算	a:分数や小数の四則演算をきちんと処理することができるようになる。 b:割合の計算を通して、実際にものの値段を求めたり、割引率を計算したりすることができる。 c: 割合の考え方を利用して、商品の値段や速さを計算しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
	就職問題	採用試験を想定した問題演習	a: 公式や定理に基づいて、1 次方程式や 2 次方程式を解くことができる。 b:未知数を文字でおき、与えられた条件を立式し、数学的に問題を解決することができる。 c:計算問題を、分配法則や因数分解を用いて、工夫して計算しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
2学期	就職問題	採用試験を想定した問題演習	a: 図形の体積や面積、線分の長さなどを、公式を用いて正しく求めることができる。 b:数の並びから規則性を見出し、その一般項を推定することができる。 c:場合の数を、直接数えあげるだけでなく、定理や樹形図などを用いて求ようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
	数学Ⅰ A	・因数分解 ・1 次不等式 ・2 次関数	a: 数量の関係を１次不等式で表したり、不等式の性質を基にして、１次不等式を解いたり、１次不等式の解を数直線上に表したりすることができる。また、不等式の中に含まれている文字の意味や不等式の性質及び１次不等式とその解の意味を理解し、解を求めるための基礎的な知識を身につけている。 b:不等式の性質を基にして、１次不等式の解き方を考察することができる。 c:数量の関係を不等式で表すことの良さを捉え、それらの具体的な事象の考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察

※令和４年度以降入学生用

3 学 期	数 学 Ⅰ A	２次不等式	a:２次関数のグラフを活用して２次不等式の解を求めることができ、２次不等式の解の意味を２次関数のグラフとの関係から理解している。 b:２次不等式の解を２次関数のグラフを用いて考察することができる。 c:２次関数のグラフと x 軸の位置関係を基に、２次不等式の解について考察しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度